

秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会 第4回会議 全体協議（概要）

○日時、場所

令和4年9月2日（金） 13：28～14：40

秋田県庁 正庁

○協議に関する質疑応答、意見・提案

①各地区からの報告

- ・ 県北地区部会長、中央地区副部会長、県南地区部会長から、これまでの協議事項の概要をそれぞれ報告

②質疑応答

- 【質問】 横手地区3校の統合の協議に関連して、統合校開校までのスケジュールについて質問をしたところ、事務局から、現在いろいろなことを協議している段階であり、開校までは今後5年～10年の年月を要する、という回答を受けた。これは、単なる棚上げなのではないかと思う。目途として何年度というように、期限をきっちり決めてやるべきだと思うがいかがか。

- 【回答】 一定の期限を決めて統合を進めることも可能だとは思いますが、できれば地域の皆様の合意の基に統合等再編整備を進めていきたいと考えている。教育庁側で一方的に期限を決めて統合を進めることは、高校の場合、性質的になじまないのではないかと考える。

- 【質問】 男鹿海洋高校は、今年度から、地域留学支援という事業の対象校になったこともあり、今まで以上に県外から生徒が入学してくれることを期待している。先日行われた体験入学には、関東方面からも生徒が参加してくれた。しかし、今の秋田県の高校入試制度では、県外からの入学者は、各学科の募集定員の1割以内と定められており、県外からの生徒を受け入れるのには限りがある。県外からの入学者は、各学科の募集定員の1割以内と定めている部分について、変更の検討をお願いできないものか。

- 【回答】 この地域留学支援事業は、男鹿市からの協力も得られることから始めたものである。いただいた御意見を踏まえ、入試委員会などの委員会でも検討していきたい。

③主な意見

- ・第七次後期計画では、進学を中心校は6学級程度を維持することが望ましいとされている。新学習指導要領が4月から始まっていることや、大学入試制度も多様化していることもあり、ある程度の学級数がないと、生徒への対応が難しくなると思う。
- ・新人戦の時期を迎え、各部とも新チームに移行しているところであるが、人数を多く必要とする団体競技では、合同チームを編成して大会に参加する動きが多く見られるようになってきた。スポーツ立県秋田を目指しながら取り組んでいるが、ある程度の競技人口がないと競技の普及や育成、強化はなかなか難しいものがある。ある程度の学校規模を維持しないと、各部部員数の確保も難しくなる。
- ・学校規模が大きいことの優位性もあると思うが、小さい学校では、先生方が生徒一人一人をよく見取ることができるという良さもあると思う。そのような視点も忘れないでいただきたいと思う。
- ・すでに報道されているように、特別な支援を必要とする子どもの数が、全国でも、県内でも、急激に子どもの数が減っているのに対して増えているという現状がある。高校の再編整備を進める際に、このような状況があることも忘れてはいけないのではないかなと思う。
- ・各地区からの報告を伺い、あるところでは思い切った手立てを取りつつも、一方では、地域の実情に寄り添った対応が必要なことも理解できた。全県一律ではなく、それぞれの地域でより良い方法を考えていくことが必要だと感じた。